附属発生工学実験施設
Laboratory of Embryonic and Genetic Engineering

本実験施設は1992年4月10日生医研の附属実験施設として開設された．施設長は細胞学部門教授の勝木元也が兼任する．また，同日付で細胞学部門助手の笹岡俊邦が配置換えで同施設助手に就任した．助教授は公募によって選考を行なうことになった．技官についても本年中は選考期間とした．

本実験施設は生医研旧棟2階全部と3階の一部を改装し，発生工学に必要な大型オートクレーブ室，マウスルーム，細胞培養室，遺伝子操作実験室，胚操作室，胚保管室等を改修により新設した．また，炭酸ガス細胞培養器，クリーンベンチ，倒立顕微鏡，実体顕微鏡，マウス飼育ラック，遠心機，DNA合成機等の機器を配置した．

本年は，本実験施設の新設に伴う施設の設計，設備の設置，備品の購入とそのテストに費やされ，本格的な研究は，来年以降に始められる見通しとなった．

本実験施設は，排水，電源等，国立大学研究所に一般的に認められる建物の老朽化の克服が根本的問題点として指摘されなければならないが，現状では国内的にみれば極めて充実したものといえる．今後，世界に誇れる研究成果が，この施設を使って次々に出るように努力したい．